

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(6/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
つくば国際戦略総合特区 (茨城県、つくば市、 国立大学法人筑波大学)	3.8	3.3 進捗度 ・ライフ イノベーション・ グリーン イノベーションの 推進による 産業化促進 146% ・次世代がん 治療(BNCT)の 開発実用化 0% ・藻類バイオマス エネルギーの 実用化 635%	3.1 規制の特例等 ・搭乗型移動 支援ロボットの 規制緩和 等 地域独自の取組 ・ロボットスーツ 治験事業 等	4.3	<p>・引き続き順調に進むことが期待される。ただし、規制緩和などは実行可能なものはあらかじめ実施完了しているだろうから、新たな申請件数を評価するより、実施しているものの現行評価を行う方がよいのではないかと考えられる。</p> <p>・ライフイノベーションの産業化促進、事業化促進件数が進捗していることは高く評価できるが、BNCTの進捗が限定的であること、財政支援、金融支援の取り組み件数がないことについて説明をいただきたい。</p> <p>・ライフイノベーションによる連携企業数は順調に伸びていると思われるが、連携達成件数のみならず、短期的な効果を望むのは難しいことは十分理解しているもののその成果についても知りたい。</p> <p>・コロナ禍の影響によってBNCTの開発実用化に遅延が生じたのは非常に残念である。照射装置自体も減価償却の運命にあると思われ、早急な稼働、および、臨床評価を期待する。</p>